

クリーニングとテキスタイルケアの分離こそが 技術の価値を顧客に告知できる唯一の道だ!!

一般社団法人日本テキスタイルケア協会 代表理事 住連木政司

技術の商品化を可能にする

テキスタイルケアとは

21世紀、世界中の業者が「クリーニング」という使い古された言葉に
革を求め始めている。
繊維製品のメンテナンスにかかわる産業が、繊維製品の多様化と二極分
化に対し、消費市場に歓迎されるべき新しい産業イメージを構築している
のだ。そして「クリーニング」と「テキスタイルケア」の分離として新し
い潮流が流れ始めた。

■衛生処理としてのク リーニングの限界

大量に生産される石油
由来のポリエステルなど
合成繊維と接着樹脂の普
及で、製造面では低価格
化が進行し、メンテナンス
ス面では家庭洗濯で十分
に対応できる多様なファ
ッション衣料が生産され
るようになった。これが、
21世紀のファストファッ
ション文化を創り出し
た。

繊維製品のリユースを目的に

■繊維知識によるテキス
スタイルケアの宣言

一方では、シャネルや
プラダに代表されるセレ
ブブランドは、前衛的な
樹脂加工や特殊素材に特
徴を持たせた高価格帯の
難洗衣料が拡大した。
このような時代の変遷



①独自の洗浄技術
機械洗浄することによ
って復元不能になるダメ
ージが発生すると判断す
れば、丸洗いを避け、特
殊技術によって製品性を
保全し、その処理の根拠
と限界について消費者に
十分な理解を与えられる
能力が必要だ。
②整形加工技術
着用疲労や洗浄などに



▲テキスタイルケア協会会員証



▶テキスタイルケア協会加盟店。ポスターを掲示し、テキスタイルケアをアピールしている

③特殊なシミを除去し色
柄を復元する
シミによって地染めの
染色よりも堅ろう度が高
くなっているものもあ
り、これを除去するため
には、染料の色素も除去
し、調査した染料で色掛
けせざるを得ない場合が
ある。また、着用頻度の
低いドレスやフォーマル
ウェアなどは、部分的な
シミ抜きだけの処理の方
が、本来の風合いや形態
を維持できる場合が少な
からずあるといえる。

④染色技術
光退色、汗退色、摩擦
白化などに対しては、多
様な染料を調合し着色、
絵入れなどの処理や、シ
リコン油脂などによる深
色加工などで、製品の色
彩を再現する。

⑤着用・保管損傷の修整
毛玉や目切れ、虫害な
どの着用損傷について
は、これを除去修整掛
け継ぎなどによって製品
を、本来の状態に近付け
るといえる。これは、専
門的な修整業界への取次
ぎによって商品化できる。
⑥はっ水、抗菌などの各

⑦クリーニングの概念は公
衆衛生を目的とする標準
的な機械洗浄に集約され、
正当な価格競争によ
って消費者の利益とな
り、テキスタイルケアは
アパレルの関連産業とし
て繊維製品のリユースを
目的とするものになる。

から、未来への潮流を探
る時、単なる「汚れ落と
し」(衛生処理)として
のクリーニング業と、こ
れとは異なる技術・情報
集約型の新産業の必要が
よって西ヨーロッパ諸国

⑧しかし、数十万円の高
級ブランドのワンピース
も、混在したまま分離す
ることなく受注するとな
ると、クリーニング料金
体系づくりに葛藤が生じ
ることになる。
装置産業としてのクリ
ーニングと技術・情報集
約型テキスタイルケアを
分離させ、消費者に対し
てこれを宣言する必要が
ある。そうすることによ
って、大衆マーケットを
維持しながら、技術・情
報の商品化を可能にする
ことができる。

全体の市場規模に匹敵す
るほどに需要を拡大して
きた。ほとんどの世帯が、
クリーニングの需要層と
なっていることは日本の
特殊性といえる。その意
味では、日本におけるク
リーニング産業は、一般
大衆がクリーニングを利

用するという習慣を維持
する必要がある。
アパレル市場において
は低価格ファッション製
品が歓迎され急成長して
いる。このためにも、生
産性を追求し低料金でサ
ービスを提供する日本型
クリーニングの必要性は
高い。

ソルカンなら 安全・安心・環境に優しい

第一種住居地域でも設置可能!

※作業面積50㎡以下の場合

建築基準法
非引火性溶剤

消防法
非危険物

大気汚染防止法
非該当

オゾン層保護法
対象外(破壊係数ゼロ)

1924
ESTABLISHMENT
TOSEN
MACHINERY
CORPORATION



12kg



20kg



30kg

税制優遇 **エコ・クリーニング機減税対象機**

公害防止用設備に関する特別償却制度対象機種
公害防止用設備に係る課税標準の特別措置対象機

※適用条件有
ソルカン溶剤や機械の特徴など、詳しくは、下記ホームページへ!

tosen-solkane.jp

株式会社 東京洗染機械製作所 本 社 〒153-0044 東京都目黒区大橋1-6-2 TEL 03(3780)8768(代)
山 梨 工 場 〒405-0012 山梨県山梨市東後屋敷707-1 TEL 0553(20)1100(代)

札幌支店 TEL 011(865)1222(代) 仙台支店 TEL 022(232)5250(代) 関東第一支店 TEL 045(924)4351(代) 関東第二支店 TEL 048(710)6625(代)
名古屋支店 TEL 052(852)6511(代) 大阪支店 TEL 06(692)5651(代) 広島支店 TEL 082(238)8661(代) 福岡支店 TEL 092(471)1157(代)

お問い合わせは、お近くの弊社特約店もしくは、弊社事業所までお願いします。